

クラス担任のための Career Guidance

2017 >> VOL.38

[キャリアガイダンス 特別編集]

RECRUIT



早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター 準教授 兵藤智佳先生(写真左:北海道立俱知安高校卒)2002年の同センター設立以来、学生ボランティア活動支援のなかで、気持ちを起点とした振り返りの重要性を痛感。現在の授業の基礎を2009年に作り上げ、全学での取り組みへと広げてきた。TA・教育学部5年 河村佳奈さん(写真右:神奈川県立湘南高校卒)ボランティアセンターを通じて行った福島での復興支援ボランティアで、大きな衝撃を受ける。「体験の言語化」授業で自分の気持ち、感情を言葉にする難しさと面白さを体験し、TAを志願した。



『体験の言語化』
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(編)

授業の成立立ちや具体的な取り組み内容、理論的背景など、さまざまな視点から紹介されている。同著には収録されなかった、実践者向けのガイドブックは、2017年冬に発売される予定。高校における体験学習の振り返り向けに、90分1回バージョンのガイドも付録される予定だ。

コラム1 「体験の言語化」授業の構成

1回目 参加授業の心構えと目標設定

<授業解説・グループワーク>

2回目 振り返り(個人の体験)①

体験を思い出し、自分の気持ちを振り返る

<ペアワーク>

3回目 振り返り(個人の体験)②

相手の事情と気持ちを想像する

<ペアワーク・ロールプレイ>

4回目・5回目 振り返り(社会課題)

体験からつながる社会の課題を発見する

<個人ワーク(マッピング)と全体共有>

6回目 発表の構成をつくる

(個人の体験と社会の課題をつなげる)

<グループワーク>

7回目・8回目 「語り」発表とディスカッション

<語りと相互評価>

●授業ルポ



この日は、6回目の「個人の体験と社会の課題をつなげる」授業。冒頭で昨年の先輩の「語り」発表DVDを観て、体験と社会の課題のつながりを具体的にイメージ。その後、個人ワークでそれぞれの体験で感じた自分の気持ちをマッピングし、そこから社会のどのような課題につながるかを連想していく。個人ワークで黙々と進める人もいれば、TAの協力を仰いで自分の気持ちを掘り下げていく人も。「一つの体験を、これほど深く考えるのは初めてで新鮮です。しかも、人に話したり聞いたりすることで、感情がどんどん膨らんでくるのが面白い」とは、教育学部1年の生井朋樹くん。人間科学部2年のT-Rさんも「大学に入學してからたくさんのポートを書くなかで、自分の考えや気持ちをうまく言葉にできずもどかしかったので、この授業を受けました。ペアワークやグループワークなどを通じて他の者の目線で自分を振り返ることができて、とても参考になります」と言う。授業の最後には、希望者が率先して皆の前で自分のマッピングを披露。行き詰まっている箇所に、クラスのメンバーから「そこで何を感じていたの?」などの突っ込みを受けながら、自分の気持ちの流れ動きを言語化していく。

※授業シラバスやループリック、授業に関する問い合わせは以下HPへ
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/open/contextualize/>

早稲田大学では、2014年から3年間かけて、「体験の言語化」という授業を確立してきた。その背景には、さまざまな国内外での経験も「やばい」「すごい」としか表現できない学生に危機感があったからだと、この授業の開発を担当した一人、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター准教授・兵藤智佳先生は語る。

「体験の振り返りをするなかで、がちながら、活動に関する客観的なデータや概念などを文献やグーグルで探し、日本でも関連する問題があることを指摘し、その対策について提言としてまとめるというような発表です。確かに客観的に正しい発表ではあるのですが、本人が体験したことばかり語らず、自分とは直接つながり語られず、自分とは直接つながりない外の世界の出来事として眺めて終わってしまいます。一方、大きく感情が動いた場面をつづり出し、自分が感じたこと、他者と出会ったときの気持ちを当てて振り返っていくと、自分がなぜその気持ちを抱いたかという自分のつながりを実感し、そこからさらにオリジナリティ

のある社会の課題についていくことができます。結局、体験したときの自分の「気持ち」に焦点を当てた振り返りが、とても重要なんです」

ところが、「気持ち」に焦点を当てようとする、学生の多くは戸惑う。

TA(ティーチング・アシスタンント)の河村佳奈さんもそうだったという。

「福島でのボランティア体験を思い出すと、ボロボロ涙がこぼれてくるのですが、その気持ちを言葉にできない。すぐもどかしい思いをしました。でも何度も繰り返し問われることで、徐々にその感情を表現できる言葉が見つかって「いくんす」(河村さん)ペアワークやロールプレイで「相手の気持ち」も想像してみたり、その気持ちがどうから派生しているのかキーワードを数珠つなぎにマッピングすることで、社会課題とつながりができることが当たり。多面的多層的に「気持ち」と向き合うことによって、漠然とついていた「もやもや」が、次第に自分の言葉として表現できるようになるのだ。授業を受けている社会科学部2年・飯泉美玲さんは、「段階的に自

多面的多層的に感情を思い出す

分の気持ちに気付いていくことがで、感情に名前がつけられるようになると、感想を語ってくれた。

教員の役割は、
安心・安全な場の確保

現在、早稲田大学の「体験の言語化」授業は、7人の教員によって25ヶ

ラス実施

されています。そのため、誰が行

う、詳細なガイドブックを作成

している

年末に書籍化予定

)とい

う

の語り

での発表にある。

「最近の学生は、パワーポイントなど使った発表がとても上手です。しかし、それは、自分の言葉ではなく、ツールに頼った発表に陥りがちでもあります。そこで、まったく資料を使わずに語りで伝えることにこだわりました」

(兵藤先生)

何を説明すれば他人が理解できるのか、どこに焦点を当てるか話がわからずくなるのか、自分なりの表現はどうのようなものなのか。学生たちがどこから派生しているのかキーワードを数珠つなぎにマッピングすることで、社会課題とつながりやすくなるのか、自分なりの表現と思考の流れが無理なく論理的に伝わるよう意識してもらいます。そのためには、先輩たちの発表映像からコールを具体的にイメージし、自分の体験を語れるように促しています」

自己開示をしていくにあたって配慮すべき内容をコラム2で紹介する。

「生徒の気持ちを振り返っていく過程では、時には本人が触れられたくなったり、クラスの中の思わず人間関係を刺激することになる可能性もあります。そこで、まずは職業体験やオーブンキャンパスなど、学校外での体験学習の振り返りで行っていくと、やりやすいのではないか」

体験を自分なりの言葉で表現するヒント

夏休みの職場体験やオープンキャンパスなどさまざまな体験を、自分事として捉え、自分の言葉で表現できるように促すヒントを取材しました。
取材文／清水由佳(ライター・キャリアカウンセラー)

高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための進路指導・キャリア教育専門誌

Career Guidance

キャリアガイダンス



最新号 Vol.418 2017年7月発行

■特集

変わる大学入学者選抜

何を問うか、どう育むか

Introduction 動き始めた大学入学者選抜

小林 浩(リクルート進学総研 所長)

Case study 個別大学の入学者選抜の今

京都大学／鎌倉女子大学／北陸大学／藤田保健衛生大学／早稲田大学

Report ここまで進む! 中学入試

聖学院中学校(東京・私立)・香里ヶ丘中学校(大阪・私立)

Case study 生徒の個性を伸ばす学び

香椎高校(福岡・県立)・園部高校(京都・府立)・南陽高校(愛知・県立)

連載

●進路指導実践を磨く!

川和高校(神奈川・県立)

●教科でキャリア教育【英語】

堤 孝先生 田名部高校(青森・県立)

『キャリアガイダンス』誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送)

バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

http://souken.shingakunet.com/career_g/

キャリアガイダンス

検索